



## 2 安全に暮らせるまちづくり

### 2-1 災害に強いまちづくり

本市が東南海地震及び南海地震に係る地域防災対策推進指定地域に指定され3年が過ぎました。この間大きな災害もなく、有事の備えも着々と進んでいます。しかし、「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉があるように油断は禁物です。今後とも、災害から市民の生命と財産を守り、安心して暮らせるまちづくりを進めます。平成19年度は災害用非常食や資材を計画的に確保するとともに、地震の備えとして有効な手段の一つである木造住宅の無料耐震診断事業について、モデル自治会を選定し、全戸診断に取り組みます。藤原岳土石流については、国県との連携を図り、対策事業の早期完了をめざすとともに、大貝戸の移住地を完工し、分譲を始めます。



大井田自治会防災訓練の様子

### 2-2 安全なまちづくり

幼い子どもやお年寄りが巻き込まれる事故が、全国的に多発しています。本市においても、平成18年度に交通死亡事故が7件発生し、そのうち5件の犠牲者が高齢者であったことから、自治会と老人クラブを対象にした「交通死亡事故多発に伴う緊急交通事故防止決起集会」が開催されました。今後とも、高齢者交通安全実技教室、自転車安全運転教室を開催するとともに、学校でも交通安全教育を実施し、交通事故撲滅に向けて取り組みます。また、カーブミラー、道路標識や防犯灯の設置など自治会要望へ迅速に対応するとともに、地域の防犯ボランティア組織への防犯物品の貸与や防犯研修会を開催し、安全なまちづくりを推進します。加えて、学校ごとに安全マップ（防犯マップ）を作成し、子どもたちの防犯意識の向上に努めます。

### 2-3 地域ぐるみのリサイクル

これまでの大量生産、大量消費の経済活動は、私たちの生活を豊かにしてきましたが、その反面、地球温暖化や環境破壊など取り返しのつかない代償を払うことになりました。美しい地球を次の世代に引き継ぐことができるよう、地域が一丸となって資源の循環（リサイクル）に取り組み、ごみの減量、適切な分別に努めることが肝要です。

平成19年度からプラスチックの再資源化が本格的に開始されるのを契機に、従来からリサイクル可能なものについても再度徹底し、地域ぐるみのリサイクルを促し、資源循環型社会の構築を推進します。



プラスチック圧縮梱包施設

### 2-4 湧くわく水サミットの開催

本市の恵まれた自然は、希少な動植物を育むかけがえのない財産です。今後とも、市内に生息するネコギギなど貴重な動植物の保存に努めるとともに、専門家と協働しデータの収集、整理を図っていきます。

また、大垣市で開催され話題となった「湧くわく水サミット」が、平成19年秋に本市で開催することとなりました。このサミットは研究者、市民団体と自治体が一堂に会し、「水を活かしたまちづくり」や「水環境の保全や活用」など「水」について考える催しで、このサミットを通じ、いなべ市のすばらしい自然や環境保全に対する取り組みを紹介し、「いなべ」の良さをアピールします。



大切にしたい、いなべの財産「ネコギギ」  
(写真:志摩マリランド)